

幻想書人（書は文字書は自分）

板橋煌陵規約にのっとり2024年 7月 1日下記質問を文書でしました
河北書道展審査に関する質問

こののはじまりは6年前、私板橋煌陵は河北書道展の審査員をしていた際、出展作品の「風」という文字に対して「線が多い」と指摘いたしました。それに対して審査委員の方々は「二本の筆で書いているのだから仕方がないだろう」とおっしゃっていましたが、後方から漢字部審査員が「誤字だろう」と怒号が飛ぶと静まり・・・・・・・・

その翌年には「得」と「徳」の字が誤っている五字句の作品が出品されましたが、審査委員の誰一人、こちらが指摘するまでわからない様子でした。この件につきましては、指摘してから2日後の夜9時に審査委員長から電話をいただき、電話で謝罪を受けました。これも審査委員長の職務に該当するのだと思いますが、電話で回答するのが正しい対応なのか些か疑問が残ります。

また、第三者が書いた作品をあたかも本人の作品であるかのように漢字部に出品した個人もいた。

そして昨年は代表取締役社長から頂いた賞状に誤字がありました。審査の「査」を「沓」と書いていたのです。70年の歴史に前代未聞の出来事でした。

このような本来ではありえないミスが頻発している河北書道展について、規約にのっとり、審査委員長である後藤大峰先生に下記のご質問をさせていただきます。

質問1

徳という漢字がわからない五字句がわからない審査員特別賞選考委員がどうして翌年も審査委員になるのでしょうか。

質問2

河北賞作品において五字句の誤字が発覚した翌年には出品事項を変更して、好きな漢字を5文字書けば良いことにならなかった理由は何でしょうか。

質問3

ミスをした審査員特別賞選考委員に対して何の処分もないのはなぜでしょうか。

質問4

規約には「審査会員になれるのは審査会員にふさわしいと認められた者」とあります。第三者が書いた作品をあたかも本人の作品であるかのように漢字部に出品した個人社中団体はふさわしいといえるのでしょうか。

質問5

審査会員招待作家解任について、規約には「河北書道展の権威を損なう行為があったとき」と記述があります。第三者の作品を出品した個人社中団体はあてはまらないのでしょうか。

質問6

特別賞選考委員は審査委員長が決めることになっていますが誤字を見つけられない、本人ではなく師匠が書いたものだと分からない作品を選別する能力がない方々は果たして本当に審査委員にふさわしいのでしょうか。

また、そのような審査委員を選別した審査委員長は何の処分もないのでしょうか。

回答は河北書道展ホームページまたは文書にて8月 1日までお願いします。

参考 図録河北書道展漢字作品 ホームページ宮城シニア美術展漢字作品 CD書作品図録 など

